表現の工夫~杜子春・風の又三郎~ 五年 組 番 名前

問 次 0 文章を読 6 で、 後 \bigcirc 問 1) 15 答えま L よう。

ある春の日暮れです

(*・1)唐の都洛陽の西の門の下に、『ぼんやり空を仰いでいる、 一人の若者がありました。

若渚は名を杜子春といって、元は金持の息子でしたが、今は⑦財産を使い尽くして、その日の暮らし

何しろその頃洛陽といえば、天下に並ぶもののない、(**2)繁盛を極めた都ですから、(イ)往来にはまだひにも困るくらい、あわれな身分になっているのです。

た(*゚゚)紗の帽子や、(*゚⁴)トルコの女の金の耳環や、白馬に飾った色糸の(*゚5)手綱が、(ウ)たえず流れて行くっきりなく、人や車が通っていました。門一ぱいに当たっている、油のような夕日の光の中に、老人のかぶっ

様子は、『まるで画のような美しさです。

細い月が、®うらうらとなびいた(**゚) 霞の中に、まるで爪のあとかと思う程、かすかに白く浮かんでいるしかし杜子春は相変らず、門の壁に身をもたせて、ぼんやり空ばかり眺めていました。空には、もうれこし

のです。

(*)まずしい思いをして生きているくらいなら、 「日は暮れるし、(生)腹はへるし、その上もうどこへ行っても、 いっそ川へでも身を投げて、死んでしまったほうがまし 泊めてくれる所はなさそうだして

も知れない」

(『杜子春』芥川龍之介。 出題にあたり一部書き改めたところがある。杜子春はひとりさっきから、④こんな取りとめもないことを思いめぐらしていたのです。

× 1 手綱…人が手にとって馬をあやつる綱。炒…薄い絹織物 907)

(¾ 3)

(<u>*</u> 5)

(<u>*</u> 4

(<u>*</u> 2

繁盛…商店などの活気があること

(<u>%</u> 霞…霧や煙が薄い帯のように見える現かれる。 けんじょう けんり かり けんりん かいり かいり かいり かいり かいまれ 国

1 正しく書と文章中の 書きまし 線部に よう。 送りがついて、 なが必要なものは送りがな漢字の読みをひらがなで、 なも書きま も書きましょう。ひらがなは漢字に 直して

(ア) 財産

ざ () さん

往来

> おう b ()

(ウ) たえず

えず

(エ) \sim 3

減 る

(オ)</ti> まずし ()

貧

2 中の 本文中の 線部①~ 「①~④の中から一つ選び、番号で答えましょう。線部「油のような夕日の光」と同じようにたとえを使った表現を、

来の美しさを「絵(画)」に例えているよ。

次 \bigcirc 文章を 読 6 で、 後 0 問 1) に答えまし よう

どっどど るみも吹きとば どどう ど どどう と" どどう

Α

どっどど どどう ど どどうど どどう

か

きとば

В

Ш

の岸に小さな学校があ

りました。

「反復 (法) とは、

- すこしず 0 すこしず つため 7
- ・太郎を眠らせ、 次郎を眠らせ、 太郎 次郎 の屋根に雪ふりつむ の屋根に雪ふりつむ。

強めたり、 ように、 リズムをもたせたりすること。 同じ言葉や文を繰り返すことで、 印 象を

詩には特に多い、 表現の 工夫だね。

した。 教室はたった一つでしたが生徒は三年生がない 運動場もテニスコー トのくらいでしたが、すぐう だけで、 しろは栗の木のあるきれいな草の山でした あとは _ 年 から 六年までみ 6 なあ

V)

ま

雪袴をはいた二人の一年生の子がどてをまわって運動場にはいって来て、ゅきばかま ないのを見て、「ほう、おら一等だぞ。 さわやかな九月一日の朝でした。青ぞらで風がとうと鳴り、日光は運動場いっぱいでした。 運動場のすみにはごぼごぼつめたい水を噴く岩穴もあったのです。 等だぞ。」とかわるがわる叫びながら大よろこびで門を まだほかにだれも来てい

というわけは、 それから顔を見合わせてぶるぶるかるえましたが、ひとりはとうとう泣き出してしまいました。 入って来たのでしたが、ちょっと教室の中を見ますと、二人ともまるでびっくりして棒立ちになり、『またり そのしんと した朝の教室のなかにどこから来たのか、まるで顔も 知らないおかしな

赤い髪の子供がひとり、*** いちば ん前の 机にちゃんとすわっていたのです。そしてその机といったらま

ったくこの泣いた子の自分の机だったのです

風 の又三郎』宮沢賢治 出 「題にあ たり _ 部 書き改 8 たところ が ある)

反復法: Y () う表現 \bigcirc 工法 が 文 章 中 15 ょ 机 7 () る 箇所 線を引 きま ょ

う

Bは「吹きとばせ」 文章中の 線 ているね。 」という同じ言葉がくり返され線部が答えだよ。Aは同じ文が



2 や擬態語) う。 (解などう は出 を 7 線 「ごぼごぼ」 る順番通り書 で囲まれ 0 かなく た文章から三つ探 よう てもよ 音や (,) 様子 して、 状態を表して そのことばを抜 ることば き出 しま (擬 音が記 ţ

どう <u>ك</u>

Š るぶ

W <u>ك</u>

ように 「ぶるぶる」 うに「と」を省略した形で書文章中で音や様子を表す言葉は 「と」を省 の場合も、 した形で書かれていることが多いよ。 「ぶるぶると」 「どうと」 のように 0 ように کے [ح] を入れて読むこともできるね と い う 形 8 「ぶるぶる」 \mathcal{O}